

ボラキョウ  
E2



# 第4回 国際ボランティアワークキャンプ in ASO



## 目的・概要

### 目的

概略：高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

21世紀の教育のキーワードを「国際」、「ボランティア」と位置づけ、高校生が自ら企画、運営することを目的に実施してきた国際ボランティアワークキャンプ inASO（通称 ポラキャン）。昨年度の第3回ポラキャンではエコバッグを作り福祉施設の子ども達へ、ミニ門松を作り老健施設のご年配の皆さんへ、それぞれお届け交流をする“アクションプラン”を実現することができました。

第4回となる本年度のポラキャンでは、普段の生活の中で感じたこと、新しい発見・好奇心を、みんなで持ち寄り、話し合い、何かできることを考えます。みんなの行動力が加わり、「かたち」あるものに創り上げられます。そんなチャレンジを一人ひとりがしていくことがテーマです。

### 好奇心 + 行動力 = チャンレンジャー

また、色々な国の留学生の参加、交流をとおして、相互理解を深めながら、異文化を受け入れ、「思い」を共有していく機会です。世界中のスマイル ~ 多様な若者の関わり合いで豊かな未来を築いていくこと、それがポラキャンのもう一つのテーマです。

- ・実施年月日 2009年10月24日(土)～25日(日)
- ・実施会場 国立阿蘇青少年交流の家  
(〒869-2692 熊本県阿蘇市一の宮宮地 6029-1)
- ・参加者 173名
- ・主催 国際ボランティアワークキャンプ実行委員会  
(高校生・大学生の構成メンバー及び構成団体については、最終ページに記載しています。)
- ・後援 熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社、日本ボランティア学習協会

#### 分科会・ワークショップ協力者(敬称略)

**国際協力：**橋村 隆介、國武 真由美、福田 公博(熊本ユネスコ協会)、児玉 顕彦、木下 俊和、吉田 智和(JICA九州)、大庭 章(フェアトレードくまもと)、最相 博子、千田 ゆう子(KLCC)、神保 勝己、藤原 かおり(熊本YMCA)、岩坂 省吾、津田 未矩(フリーザチルドレン)、Qudaih Yaser(パレスチナ・熊本大学留学生)

**国際交流：**留学生(当日参加者)、樋口 久美子(社団法人パフォーマンス教育協会九州支部)

**多文化共生：**竹村 朋子(外国から来た子ども支援ネット代表)、岩谷 美代子(中国帰国者・外国人生徒の進学を支援する会)

**環境：**園田 敬子(NPO法人環境ネットワークくまもと)、澤 克彦(九州パートナーシップオフィス)

**社会貢献：**和久田 日出夫(熊本21の会)、富永 智子、曾篠 恭裕(日本赤十字社 熊本県支部)、草野 泰宏(NPOくまもと)

**福祉：**藤本 知也(やまびこ福祉会 施設長)

**アドバイザー：**興梶 寛(昭和女子大学)

**留学生コーディネーター：**中家 由紀子(世田谷ボランティア協会)

**事務局：**八木 浩光、勝谷 知美、下田 隆文(KIF)

## スケジュール

### 高校生

#### 1日目(10月24日(土))

- 9:30 熊本市国際交流会館 出発(専用貸切バス)
- 11:20 国立阿蘇青少年交流の家 到着  
入所オリエンテーション
- 12:00 昼食
- 13:00 開会式
- 13:20 基調講演
- 14:10 ワークショップ1
- 15:00 分科会1
- 17:00 タベの集い
- 17:30 夕食・入浴
- 19:00 ワークショップ2(いろんな活動家と出会い話し合う!)
- 20:15 交流会
- 22:30 就寝



#### 2日目(10月25日(日))

- 6:30 起床
- 6:50 清掃
- 7:15 朝の集い
- 7:30 朝食
- 9:00 分科会2
- 10:00 報告会準備
- 11:00 報告会
- 12:00 昼食
- 13:00 閉会式
- 13:30 国立阿蘇青少年交流の家 出発(専用貸切バス)
- 15:30 熊本市国際交流会館 到着



# 留学生の活動

報告者：中家 由紀子（社会福祉法人世田谷ボランティア協会）



10月24日から1泊2日にわたって開催された「第4回国際ボランティアワークキャンプ in ASO」にこのワークキャンプの産みの親である、故 榊 定信先生とのご縁から留学生担当として、東京・世田谷から参加しました。

10代～50代の留学生約50名とともに過ごした2日間は、「シンプルなプログラムだけれども、高校生たち自身が創りあげているところが素晴らしい。国に帰ったら自分の娘に伝えたい」と留学生の1人が感想をもらっていたとおり、私たちが熊本の元気いっぱい的高校生たちから刺激を受けた時間でした。

あっという間の2日間でしたが、この「国際ボランティアワークキャンプ」で出会った高校生、留学生同士の交流が続いていくことを願っています。



## 留学生からの声

報告者：Muhammad WANNOUS（熊本大学）

Visiting Mount Aso has always been of great joy for me especially when I had the chance to join groups of Japanese and foreign friends and spent a night at the youth center where I enjoyed many activities and good food. This year in October, together with many foreign friends and Japanese high school students I had the opportunity to spend two days and one night there. For the group works, we spent the time discussing the best ways to use and keep the good water God blessed us with. Also I had the opportunity to talk with the students about my country and let them experience the taste of our sweets. I think that they have loved it so much. In addition, I could meet many people volunteering at NPOs and discussed with them issues related to

removing landmines from many places on earth and I signed a card that they are preparing to send to the president of the United States asking for support. On the other hand, that time was also for spending really fun and joy time with many people from around the world playing games and various sports. We had planned to visit Mount Aso on the second day, but because of the rain this visit was replaced by visiting Aso Shrine which is famous for its water springs which I tried to try all (I do not know whether I covered all springs or not). In short, I can say that the time we spent in Aso youth Center was useful, enjoyable, and worth it!



## 留学生

### 1日目（10月24日(土)）

- 10:00 熊本市国際交流会館 出発（専用貸切バス）
- 10:30 熊本大学 出発（専用貸切バス）
- 12:00 国立阿蘇青少年交流の家 到着
- 12:00 昼食
- 13:00 入所オリエンテーション・プログラム概略
- 13:30 ものづくり体験（円形木琴）
- 15:00 分科会1（高校生と合同）
- 17:00 タベの集い
- 17:30 夕食・入浴
- 19:00 ワークショップ2（いろんな活動家と出会い話そう！）
- 20:15 交流会
- 22:30 就寝



### 2日目（10月25日(日)）

- 6:30 起床
- 6:50 清掃
- 7:15 朝の集い
- 7:30 朝食
- 9:00 分科会2（高校生と合同）
- 10:30 阿蘇観光 草千里～阿蘇神社（専用貸切バス）
- 昼食（お弁当）
- 13:15 国立阿蘇青少年交流の家 到着
- 13:30 国立阿蘇青少年交流の家 出発（専用貸切バス）
- 15:00 熊本大学 到着
- 15:30 熊本市国際交流会館 到着



## 「勇気を持って大きな未来(せかい)へ」

報告者：越智 彩 (熊本県立熊本高等学校)

ビクトリアス・ポターが、かつて家庭教師をしていた少年のために描いた一冊の絵本「ピーターラビットのおはなし」は、ベストセラーになりました。彼女は、その著作権使用料で環境汚染が深刻だったイギリスの湖水地方の農地、牧草地を購入して、自然を守るボランティア活動「ナショナル・トラスト」に参加しました。そのため、ピーターラビットはボランティア活動のシンボルとされています。その後、イギリスでアレック・ティクソンが、アメリカでジョン・F・ケネディー大統領が、インドでマザー・テレサがボランティア活動を推進しました。

ボランティア活動とは、「共生社会の実現をめざして、その目的や価値に共感して、自らの自由意思によって行動すること」で、自発性・非営利性・公共性の3つの要素が必要となります。自発性とは自分の良心に従って主体的に行動すること、非営利性とは活動の対価に束縛されないこと、公益性とは共に生きる社会を希求することです。

そして、ボランティア活動は、「人と人、人と社会を結ぶコミュニケーションの果実」とも言えます。自分を知ってもらう努力をすること、自分を見つめ社会に貢献できることを発見すること、そして様々な情報収集をして自己の役割を理解・認識すること、さらに活動を興し社会的使命の達成について確認することが大切になります。

さて、内閣府が行った世論調査では、青少年(15~19歳)のボランティア活動への参加は、1993年 38.3%、2005年 55.3%と増加していますが、まだまだボランティア学習をとしと伸ばしていく必要があります。

ボランティア学習においては、自己への探求・社会課題の理解・学習成果の活用の3つの力を身につけることが要求され、青少年自らが「企画・立案、運営、評価までの全過程」に積極的に参画するプロセスが重視されなければなりません。これにより、私たちは、「なぜ生まれてきたのか」「なぜ生きるのか」など、「必要とされる自己」を発見できるのです。例えば、アメリカのジョン・スタインバックは、「少年は必要とされてはじめて大人になる。」と言及しています。

最後に、「あなたはどんな人間になりたいですか？」～人はかけがえのない存在として認められ、自分の役割を実感できたとき、どんな人間になりたいかが見えてきます。

そのために、最も大切なことは「動く」だ！  
小さな社会から大きな未来(せかい)へ  
勇気を持って飛びだそう！！



## 「コミュニケーション力」

報告者：戸野本 昌大 (熊本県立熊本高等学校)

目的を達成するため、良い人間関係を形成するために必須となる「コミュニケーション力」。あなたの「コミュニケーション力」は？「こう伝えたいのにうまく伝わらない…」、「いつの間にか相手の機嫌を損なってしまった…」などと云う失敗は、誰しもしたことがあると思います。人とうまくコミュニケーションを図る上で、「自己表現」の仕方について知識があるのと、ないのでは大きな違いがあります。それは私達高校生も同じことです。

私達が何気にしている「自己表現」…相手に伝えるための「言葉」の力は、全体の自己表現の要素の30%にすぎません。「言葉」に付随する顔の表情や態度、服装や言い方などの要素が組み合わさって初めて、1つコミュニケーション力がある「自己表現」になります。私達が「あの人は仕事ができそう。」などと思うのは、その人の言葉よりも、スマートな振る舞いを無意識のうちに感じ取っているからです。従って、自分がどのような印象を持たれるかは自分自身の問題なのです。そのため、私達はTPOにしたがった自己表現に気をつけ、臨機応変な対応ができるようなコミュニケーション力を身につける必要があります。樋口先生のお話の中では、ある企業の採用試験ではまず修正液を使った履歴書はすべて省かれ、面接では1番早く面接会場に来た人を無条件で合格にしたそうです。この1例からも分かるように、「自己表現」が時にはその人が持っている能力や技術より重視されることもありうるのではないのでしょうか。

さて、あなたは、今日、誰とどのようなコミュニケーションをとりましたか？あなたの言動は他の人を不快にはしませんでしたか？もっとこうすれば良かったと思うことはありませんでしたか？

たか？ また、それはなぜでしょう？自分を振り返り、相手の事を考えながらたくさんの気づきを発見することによって、より良いコミュニケーションの取り方が徐々に分かってくると思います。例えば、相手と話すときに笑顔を意識するだけでも相手に与える印象はまったく違うものになります。どうせ人と接するのなら好印象を持たれた方が嬉しいし、良い人間関係をつくる方が良いとは思いませんか？自分のために、また社会人の常識として「コミュニケーション力」を身につけることはとても大切なことだと思います。

現代社会では電話やメールといった便利な機器により、人とコミュニケーションを簡単にとることができる時代になりました。しかし表情や態度といった「自己表現」の要素がうまく伝わらず却ってコミュニケーション不足になるというパラドックスが生じているのが現状だと思います。言葉だけが情報と考えて何でも電話やメールで済ませてしまい、誤解を生んでしまうことが日常茶飯事になっています。改めて自分の一つ一つの言動を見つめてください。私達はいろいろな人と接し、お互いを思いやることで、生きていく上で最も基礎であり重要なものの一つである「コミュニケーション力」に関心を持ち、身に付けていくべきだと思います。私達が社会人になったとき求められるのは「コミュニケーション力」ではないのでしょうか？

私は、今回の貴重な経験を通して学んだこの一生涯役に立つ知識を日常生活に活かし、良い人間関係を形成していきたいです。



## 社会マナー ～人との関わり方～

報告者：藤木 あみ (熊本県立熊本高等学校)



私は、今回のボランティアキャンプに第1分科会「社会マナー～人との関わり方～」の担当実行委員として参加しました。9人の高校生、8人の留学生の方と楽しく議論を進めていきました。

まず、行ったのが、「Let's talk with me」。これは、ただ相手と話すだけでなく、目や口、鼻を隠しての会話。人間の感情は顔のどこがよく伝えているのかを実感しました。とても多かった意見が目と口で、そこの表情に気をつけての会話をしていきたいと思いました。

次の活動は、「あなたとならどこまで認められる?」。これは自分のパーソナルスペースを知るための活動です。このスペースを持たない方もいましたが、ほとんどの人が、それを持っており、初対面の人との接し方を考えることができました。これで、特に議論が進んだのが、「電車の中に乗客は自分以外に1人だけ。自分ならその人を意識してどこに座るのか?」で、各国により、他人に対する意見が全く違い、文化の違いを知ることができました。特に、パレスチナからの留学生の方の「隣に座って会話を始める」という意見には、私達日本人はとても驚きました。

3つ目の活動は、「部屋をアレンジよう!」。リビング・自分の部屋・会議室の絵に色を塗っていき、落ち着く色・くつろげ

る色など、色について学びました。例えば、人に謝りに行く時に赤い衣服などではとても失礼ですから…。

すべての話し合いを通して、第1分科会はとてもいい雰囲気でも意見も出せ、留学生の方ともジェスチャーや片言の英語でコミュニケーションをとることができました。「社会マナー」について学んだので、今後生きていく上で少しでも参考になっていたらとても嬉しく思います。第1分科会はとても楽しかったです。



## 思いを形に!

報告者：小原 麻衣 (熊本県立熊本高等学校)



「思いを形に!」というタイトルに沿って、1日目に社会福祉施設ワークセンターやまびこ施設長の藤本知也氏のお話や車いす体験を通して私たちが心に感じたことをそれぞれに表現してみました。また活動の一つは、「心のバリアフリー」をテーマにちぎり絵を制作することです。高校生から出てきたイメージを、高校生と留学生で協力しながら画用紙一枚分の大きなちぎり絵へと制作していきました。絵のポイントとなるハートには色とりどりの折り紙が散りばめられています。最後には、第2分科会参加者全員が絵の回りに寄せ書きして一人ひとりの思いを込めました。もう一つの活動は、自分たちでUDデザ

インを考案することでした。車いす体験から、障害のある人にとって外の世界に想像以上のバリアがあるということを痛感しました。そこで私達は、この体験を踏まえて身の回りにまだまだ多く残るバリアを解消するアイデアを考え、画用紙に描き発表しました。シートと背もたれがベルトコンベアのように動き、1人ででも車いすからベッドへの移動を可能にしたり、車輪の代わりにクモの様な足を付けて階段や高い所にも手が届いたり、ユニークでなるほどと思わせる名案ばかりで驚きました。2日間の分科会はあっという間でしたが、たいへん実りある活動ができました。



## ボランティア

報告者：中村 遥奈 (熊本県立熊本高等学校)



第3分科会では、ボランティアのイメージから自分たちでできるボランティアまで幅広く考え、話し合いました。

1日目はまず、様々なボランティア活動の写真を使って、フォトランゲージを行いました。その後、今までそれぞれが持っていたボランティアのイメージや行ったことがあるボランティア活動について意見交換・情報交換をしました。今まで行ったことがあるボランティア活動としては、街のペンキ塗りなどなかなかユニークな活動ばかりで、とても興味深く思いました。それぞれのボランティアに対する考えや思いを再認識し、共有することができたように思います。その他にも、ボランティアに関するクイズを行い、ボランティアの歴史について深く知ることができました。

2日目にはNPOくまもとの草野さんからボランティア活動をするときの心構えについての話をいただきました。これからボランティア活動をしていくにあたってマナーと礼儀が必要だということを改めて実感させられるお話でした。

これらの活動を踏まえて、1日目から2日目にかけて自分自身がやってみたいボランティアについて考えました。上海万博でガイドをしたい、被災地に物資を送るというグローバルな視点で考えられた意見から、地域の病院に行き劇をしたり、絵を描いたりして喜んでもらいたいという地域密着型の意見や、工

コキャップ集めなど本当に様々な意見が出ました。どの意見も自分のやりたいことを前面に出した良いアイデアでした。

この2日間、短い間でしたが、ボランティアを行うときに互いを認め合うことの大切さなどボランティアについて改めて気づかされる点が多くありました。ボランティアは幅広く、身近なことで簡単に行うことのできるボランティアもたくさんあります。今回この分科会に参加して、よりボランティア活動に興味をもった、意識が変わったなどの感想もありました。これからボランティア活動に参加するきっかけになればと思います。

最後に、今回この分科会に参加してくださった皆さん、サポートしてくださった方々、本当にありがとうございました。



## わたしの地元食

報告者：緒方 菜津美 (熊本市立必由館高等学校)



第4分科会では、ピザ作りを通して世界の食文化について知るとともに、今世界で起きている「食問題」について考えました。

私たちはまず1日目に、中国、韓国、フランス、マレーシア、インドネシア、ブラジルの留学生の方たちと一緒にピザ作りを

することからスタートしました。ただピザを作るのではなく、参加した留学生の方の国の特色あふれるピザを、私たち日本人も含め分科会全員で協力して作りました。使う食材、調味料も、国によって全く違って、とても驚きました。

出来上がったピザは、どれもとても美味しく、各国の特色あふれるものになりました！各国独自の食文化の違いを、改めて発見できた1日目になりました。

2日目は、1日目で行ったピザ作りをもとに、ピザを作ってみての感想や、日本・世界の食の現状、食文化などについて話し合いました。

意見交換では、特に留学生の皆さんからの発言が活発に見られました。

この2日間で、改めて自分達の食文化について考えることができました。

そして、そのかけがえのない食文化を継承していくためにも、1人1人がもっと「食」への関心を持ち、自分にできる小さなことから始めていくことが大切なのではないかと思えます。

最後に、この第4分科会に参加してくださったみなさん、支えてくださった方々、本当にありがとうございました。

## 多文化共生

報告者：濱田 真梨子 (熊本県立熊本高等学校)



第5分科会では、多文化共生をテーマに、ゲームなどを通して、いろんな文化に触れることの楽しさや、お互いにきちんと気持ちを伝え合うことの大切さなどを学びました。参加したみなさんに、「言葉や文化が異なっても分かり合えるのだ」ということを理解してもらうことを目標としました。世界にはたくさんの方がいて、たくさん言葉や文化があります。異文化と触れるときには少し不安を感じますが、勇気を持ってその壁を取り除けば、私たちはよりたくさんの方と分かり合うことができます。

当日の分科会では、具体的に、ビンゴゲーム、異文化体験、外国のイメージについての意見交換をし、また、外国から日本へ引っ越してきた学生の作文を読みました。

この分科会で、私たちは他国に対して、無意識のうちに、多少の偏見を持っていることに気付きました。それは、私たちがマスメディアなどごくわずかな情報だけでその国のイメージを

勝手に決め付けていたためです。他国の事を知るためには、枠で切り取られた情報でなく、自分で本当の事を知ろうと、働きかけることが1番大事だということを知りました。

異文化体験では、3つのことをしました。

1つ目は、1人の周りで数名が中国語で会話をするというものです。この1人は中国語がわかりませんので、何を話しているかわかりません。むしろ、自分の悪口を言われているのではないかと不安さえも感じます。「理解できない」というのは怖いことだということを知りました。

2つ目は、鹿児島弁を聞くというものです。同じ日本という国なのに、住んでいる地域が少し違うだけで、何を言っているのか全くわからないものもありました。私たちは、異文化と聞くと、外国同士を考えがちですが、同じ国の中にもあるのだということを知りました。

3つ目に、スペインや中国の数学の問題を解きました。数学は全世界共通のものだといわれていますが、言葉が分からないと、小学校1年生レベルの問題ですら解けないということを実感しました。

この分科会を経験して、たくさんを知りたいという気持ちがより強くなりました。世界は広く、私たちのまだ知らない楽しいことは山ほどあります。これから多くの事に挑戦していきたいです。

分科会に参加した皆さんも積極的で、楽しい時間を過ごせたので良かったです。

## 水守になろう！

報告者：中原 友里恵 (熊本県立熊本高等学校)



私たち第6分科会では、『「水守になろう！」水ってすごか！けん』というテーマのもとで、熊本の水の素晴らしさや世界の過酷な水状況をきいて、熊本の環境にもっと関心を向け大切にしてもらうことを目的としました。

初めに、水でも味などが源水地によって違うことを知ってもらおうと、水の飲み比べを行いました。皆さんにはどのコップにどこかの源水地の水が入っているかは知らせず、どれが好きかを聞いてみたところ、高校生も留学生の方々も熊本の水と同じ軟水の水に「好み」であるとの票が集まりました。また、硬水は後味がキツク飲みにくいなどの意見も出ました。次に、水検定3級の練習問題に高校生と留学生2人1組で熊本や世界の水についての問題15問に挑戦していただきました。日本語の問題を留学生の方々に教えながら解くのは、少し難しかったようですが、しっかり皆さんで協力して取り組んでいました。また、たくさんの国籍の人達が集まったので自分の国の水環境について話してもらいました。中国やシリアのリアルな状況をその国の人に話してもらうことは、とても現実味があって興味深く、

為になったと思います。2日目には、崇城大学のエコデザイン学科・橋村隆介先生に地下水ができる構造についてお話していただき、2日間の感想とこれから「水」を守るために取り組みたいことを考えてもらいました。今まであまり気付けなかった身近な水環境に関心をもち、皆さん「水守」になれたのではと思います。



## 情報発信



報告者：大坪 由美 (熊本県立熊本高等学校)

第7分科会「情報発信」では、去年作成したボラキャンのホームページを題材にして、高校生、大学生のコミュニティー作り、情報発信について話し合いました。

まず1日目は4つのグループに分かれ、去年のホームページを見て意見を出し合い、どう改善していけばもっと良いホームページになるのか考えました。以下は、そこで出た意見の一例です。

- ・情報を増やす、活動内容を紹介する、更新を増やす！
- ・文字だけでなく、写真、絵、ムービー、飾りを入れる！
- ・リンクをつくる！
- ・分かりやすく、サイトマップをつくる！
- ・見出し、ポイントを入れる。
- ・多言語にする！

そこで、1日目の夜にホームページを日本語と英語で見ることが出来るようにし、横に目次を作り、スマイルステーションのホームページとリンクするという訂正を行いました。

2日目は訂正したホームページを紹介し、さらに意見を出し合いました。

また、1日目にはコミュニティー活動の事例として同じ高校生の越智彩さんによる留学体験発表を行いました。留学していたモンタナでの様子を紹介すると共に、日本に帰ってきた現在

もインターネットを通じ交流を続けている様子を知り、ボラキャンの活動をインターネット上で広げ、発展させていく可能性を感じました。

情報発信ということで今回は大きくインターネットを取り扱いましたが、現在世界には多くの情報発信ツールがあります。まだまだ多くの可能性がある分野です。また、ボラキャンのホームページも今回が終わりではなくこれからがスタートです。これからの継続的なチャレンジが重要になっていくと思います。



スマイルステーション

[http://www.geocities.jp/aso\\_highgroupware/index.html](http://www.geocities.jp/aso_highgroupware/index.html)

## 全体報告会



報告者：姜 超倫 (熊本県立熊本北高等学校)



ここではこの2日間の熱い思いをそれぞれ報告しました。

今年は昨年より2分科会増え、7つの分科会になりました。それぞれの分科会は今年のテーマ<チャレンジ>を中心に話し合ったことを発表しました。どの分科会も各々に工夫をこらした内容ややり方で取り組み、とても充実していたと思います。皆が分科会の発表を一所懸命聞き、ともに笑い、ともに考える姿を見て、成長できた2日だったことがわかりました。全体報告会を通して新しい「ボラキャン」の可能性を感じました。





## ワークショップ2

### 「いろいろな活動家と話をしよう！」

報告者：渡辺 彩水・吉村 絵美（熊本県立熊本高等学校）



「いろいろな活動家と話をしよう！」では今回大きく分けて4グループ（国際協力、国際交流、社会貢献、環境）16団体の方々をお呼びしました。

開始した途端、高校生の皆さんはそれぞれ思い思いの場所へ向かい、積極的に質問したり、活動家のお話に関心している様子が見られました。

1つのブースにたくさんの人が集まっている所もありました。約1時間の活動時間では話し足りなかった参加者もいたようで、私自身もその内の一人です。

実際にいろいろな分野の活動をしている方々の話を直接聞くことで、自分の知らない世界を垣間見ることができました。

ワークショップでは普段なかなか聞くことの出来ない貴重なお話を聞くことができました。

また今回のワークショップの参加をきっかけに、ボランティアへの意識が変わった人もいたのではないのでしょうか。

この体験を生かしてたくさんの事に興味を持ち、身近なこ

ろから具体的な行動に移してもらえると嬉しく思います。

ワークショップに参加して下さった皆さん、お手伝いをして下さった事務局の方々、本当にお世話になりました。

ありがとうございました。



## 交流会

報告者：小原 麻衣（熊本県立熊本高等学校）



1日目の夜、しめくりとして全参加者が交流会で1つになって盛り上がりました。最初は「鳴き声ゲーム」を行い、高校生も留学生もワンワン、ニャンニャン、ブーブー…と動物になりきって楽しみました。次にこのボラキャンのテーマが「challenge」ということで、一人一人が自分のチャレンジ目標を折り紙に書いたものをつなげて大きな「challengers！」の文字を作りました。たくさんの参加者がいたからこそできた大作です。みんなのチャレンジ目標が将来一つでも多く実現することを願っています。



## メッセージ

### 実行委員会よりメッセージ

報告者（副委員長）：楊 雨明（熊本県立東陵高等学校）



第4回ボランティアワークキャンプの実行委員会では、「チャレンジ」という大きなテーマのもとで、企画を立て、実行しました。それぞれの分科会でみんな自分なりのチャレンジ目標を持って頑張りました。そして、それを達成できたことを心に深く感じました。

今回のワークキャンプの分科会の数は昨年までと違って二つ増え、そして、メンバーのほとんどが初めて実行委員になる人ばかりだったので、最初すごく不安でした。しかし、みんなで協力して乗り越えることが出来ました。実行委員が全員親友になり、「絆」を感じながらお互いに助け合う場面も何度もあり

ました。友情の力の大切さが身に染みしました。

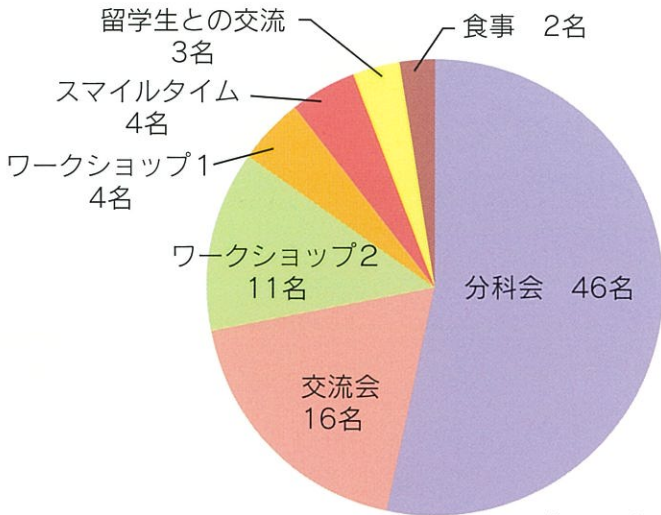
今回のワークキャンプで高まったみんなのボランティアへの意識は、これからの生活にも繋がってくると思います！また様々なハプニングもありましたが、そのようなことも活かして、第5回「ボラキャン」を更によりものに、成功させたいと思います。

最後に、参加して下さった高校生、留学生の皆さん、サポートして下さった大学生、先生方々や団体の皆さん、そして実行委員の皆さんに、心から感謝します。

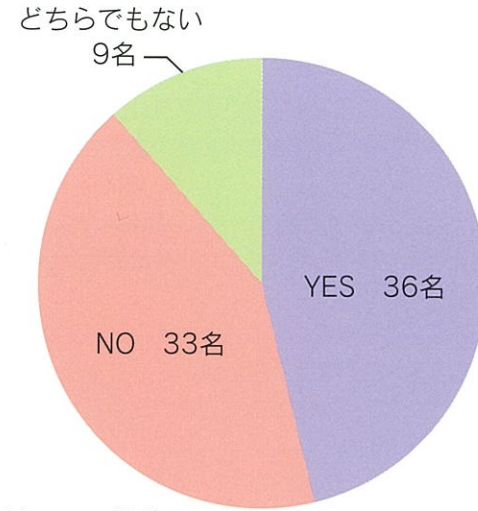
# アンケート

報告者：張 炳航（熊本県立熊本北高等学校）・澤野 未砂（熊本県立熊本高等学校）

## 一番印象に残った活動は？



## このワークキャンプの実行委員会をやりたいと思いますか？



約半数も！やりたいという人が

[アンケート回収数 80 枚]

### 分科会の感想

- 自分が知りたかったことを楽しく勉強できた。多くの国の文化を理解しようと思った。
- いろんな人と仲良くなれた。初めて知ったことが多かった。
- 言葉の壁はあったが、少しでも近づけたと思う。
- 普段考えないことを深く考えて、相手を認めることや自分を見つめなおす良い機会になりました。
- コミュニケーションという身近な分野で普段考えなかったことを改めて考えることができて良かったと思う。

### その他の感想

- ボランティアについての理解が深まった。意識が変わった
- 少しでも誰かの役に立ちたいと思った。
- みんなで力を合わせれば、大きな力になることを学んだ。
- 勇気を持って大きな未来へ進もうと思った。
- コミュニケーションで大切なことが分かった。感動した。
- 初対面の人との接し方が分かった。
- 出会って最初の7秒間を大切に、いろいろな出逢いをしたい。
- 国際的な取り組みを聞くことができた。
- ボランティアについての心構えを学んだ。

この他にも同じような意見が多数寄せられました！！

あなたの参加を待っています！



“ボランティアに興味がある人々の笑顔が集まる場”が熊本市国際交流会館に誕生！

# ♪ Smile Station ♪

Smile Station は「第4回国際ボランティアキャンプワーク」で集まった高校生の絆を1泊2日限りのものにしたくない、ボラキャンをもっと継続的に身近なものにしたい、という思いから始めました。11月14日に第1回が行われて、毎回たくさんの高校生が集まり、今まで知らなかった様々なボランティア活動の情報交換の場となっています。

また、Smile Station 独自に書き損じハガキ集めや、エコキャップ集めを始めました。



- ♪ 笑顔が好きの人
- ♪ たくさんの人と出会いたい人
- ♪ 何か活動をしたい人
- ♪ 何か活動を紹介したい人
- ♪ 第5回ボラキャンに興味のある人

Smile Station に集まれー☆  
 日時：毎月第1土曜日14時～  
 場所：熊本市国際交流会館

ブログ <http://smilestation.blogzine.jp/>

第4回国際ボランティアワークキャンプ実行委員長：内尾 晶子（熊本県立熊本高等学校）

## 国際ボランティアキャンプ in Aso に参加して



1. 報告者：後藤 由衣 大学生サポーター（熊本学園大学3年）

私は、国際交流振興事業団のインターンシップ生として、このワークキャンプに参加させていただき、高校生達のサポートスタッフを務めました。私は、事前に行われていた実行委員の会議にも何度か参加し、実行委員の皆が一生懸命準備をしている姿や、参加者の皆さんに楽しんでもらいたいと、時にはお互いぶつかり合いながらも、熱く話し合いを重ねている様子を見て、実行委員の皆がこのワークキャンプに向けてこれほど情熱を注いでいるのかと、大変驚き、私もこの皆の為に出来ることをしっかりとサポートしなくては、と刺激を受けました。また、私も皆が満足のいくワークキャンプにしたいと強く思うようになりました。

ワークキャンプの何ヶ月も前から、実行委員を中心に様々な準備を重ね、実際にワークキャンプが始まりました。今回のワークキャンプは約170名の方に参加していただき、大規模なワークキャンプとなりました。分科会も昨年よりも多い7分科会に分かれ、それぞれのテーマについて2日間話し合いました。分科会では様々な国の人と意見交換ができ、それぞれ新しい発見が出来ました。また、分科会で共に活動することで友情も芽生え、留学生や高校生の良い交流の場になっていたと思います。今回のワークキャンプには、参加した一人ひとりがチャレンジャーになって、それぞれの分科会で考えたことをこれからの生活の中で行動に移していこう、という目的がありました。参加者はそれぞれ自分のチャレンジ目標を考えました。このワークキャンプを通して、参加者の皆さんは今までより少し違う視点から物事を考えることが出来るようになったり、色んな知識や情報を吸収したり、たくさんの人から良い刺激を受けたりと、きっとワークキャンプに参加する前より一歩成長した自分になった、大変充実した2日間だったのではないかと感じました。このワークキャンプでの経験は自分にとっても貴重な財産にな

り、これからの一人ひとりの自信や行動力に繋がる大きな原動力になると思います。また、ワークキャンプでの出会いはかけがえのないもので、新たな繋がりができたり、大切な仲間ができたりと、自分の世界が広がったことだろうと思います。興梠先生の基調講演でもあったように、様々な人との出会いを通して、周りの人や社会の為に自分は何が出来るのかを考えていきたいと思います。このワークキャンプで学んだことを原動力に、行動へ移し自分が必要とされる喜びを感じることが出来るような社会を、自ら創りあげて行くことが大切となることでしょう。

また、私はワークキャンプのサポートを通して、皆で協力して何かを成し遂げる達成感や、少しでも自分に出来ることをして、最後に皆の笑顔が見られたときの喜びの素晴らしさを改めて感じました。このワークキャンプで出会えた方々ご協力いただいた全ての方々に心から感謝したいと思います。このワークキャンプでの思い出はいつまでも私の心の中にあると思います。素敵な経験をさせていただき本当にありがとうございました！



2. 報告者：橋村 隆介（熊本ユネスコ協会副会長）

昨年に続き今回も参加させていただきましたが、とても有意義な時間をすごさせていただきました。スタッフをはじめ参加者全員の方々のご苦勞と企画運営の良さに感謝いたしています。昨年は、あまり感じていませんでしたが、今回は事前準備のときに若干でしたが参加させていただき、各分科会の高校生リーダーの熱意と行動力に対し深い感銘を覚えました。特に、リーダーの方々3月に中学を卒業したばかりなのにそのレベルの高さに感動いたしました。

私が関与した分科会は、第6分科会で「水守りになろう！」をテーマにした勉強会でした。リーダーの中原さん、吉村さんによるオーガナイズ (organize) で行われました。分科会に参加したみんなが、水の味覚を確認しながら水の価値について話し合われ、恵まれた環境に在ることそして世界の中には深刻な水問題があることなどを確認し、水守りの大切さを確信いたしました。留学生の方の参加により、さらに内容の濃いものになったと思っています。ただ、私の通訳と説明が不十分であったので反省しています。

全体会の発表もすばらしいもので、それぞれの分科会が有意義に行われたことを実感しました。また、留学生との交流もでき今後も、熊本ユネスコ協会として、大学人として協力してまいりたいと思っています。ありがとうございます。





### Tシャツ担当：緒方菜津美（熊本市立必由館高等学校）

実行委員長の内尾晶子を筆頭になんだかんだありながらも楽しく準備をすすめた4ヶ月☆  
夏合宿や分科会、全体でたくさん話し合い、盛り上がり、時には悩みケンカもして……。  
いろんな壁にぶつかりながらも最後は「内尾式」で乗り越えてきました。  
今回、実行委員会が着ているTシャツはこの4ヶ月力をあわせて頑張ってきたメンバーの「絆」  
をテーマに作りました。

### デザイン担当：吉村絵美（熊本県立熊本高等学校）

みんなの愛と友情が詰まっているTシャツです。それが伝わるように頑張りました！

## 国際ボランティアワークキャンプ実行委員会

### ■主催構成団体（順不同）

- 株式会社近代経営研究所
- 熊本ユネスコ協会
- 独立行政法人国際協力機構九州国際センター
- 国立阿蘇青少年交流の家
- 株式会社日本リモナイト

### ■事務局

財団法人熊本市国際交流振興事業団

### ■高校生、大学生実行委員メンバー

姜 超倫	北高校	吉村 絵美	熊本高校
末永 宜章	北高校	渡辺 彩水	熊本高校
張 炳航	北高校	島田 彩香	第一高校
内尾 晶子	熊本高校（実行委員長）	山村亜唯尊	東陵高校
大坪 由美	熊本高校	楊 雨明	東陵高校（副実行委員長）
越智 彩	熊本高校	緒方菜津美	必由館高校
小原 麻衣	熊本高校	前川 玲奈	必由館高校
澤野 未砂	熊本高校（副実行委員長）	後藤 由衣	熊本学園大学
田島 紫月	熊本高校	浅倉 愛実	熊本大学
戸野本昌大	熊本高校	濱上なぎさ	熊本大学
中原友里恵	熊本高校	本村 裕美	熊本大学
中村 遥奈	熊本高校	池田 直彦	崇城大学
沼 ゆうき	熊本高校	前田 晃平	崇城大学
濱田真梨子	熊本高校	山口 友輔	崇城大学
藤木 あみ	熊本高校		

※当事業に対し、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「平成21年度（財）中島記念国際交流財団助成留学生地域交流事業」、（社）日本ユネスコ協会連盟から助成をいただきました。

